

 <div style="display: inline-block; vertical-align: middle;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">日本語版</div> ニュースレター </div>	No. 53 平成 20 年 (2008 年) 3 月 17 日発行 北海道・マサチューセッツ協会 会長 森本 正夫
Hokkaido Massachusetts Society 北海道・マサチューセッツ協会	発行所 〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 7 丁目 道庁別館 12 階 TEL011-231-3392 FAX011-231-3666 発行人 中垣 正史 E-mail homas @ siren.ocn.ne.jp

北海道開拓の基礎を築いた指導者たち ⑨

十勝開拓のパイオニア・・・依田勉三の苦闘の生涯 —「ケブロン報文」・札幌農学校フロンティアスピリッツに触発されて—

「晩成社」は、北海道の開拓を目的として明治 15 年(1882)1 月、静岡県伊豆大沢村(現在の松崎町)の豪農依田一族を中心に結成されました。中心となったのは、三男依田勉三と学友渡辺勝、鈴木銃太郎の三人でした。

依田勉三が北海道開拓の意志を固めたのは、慶応義塾に入学して福沢諭吉の薫陶を受けて開拓報国の念をいだくようになり、さらに「ケブロン報文」とクラーク博士の「札幌農学校」の新風の強い影響であったようです。勉三の明治 14 年・15 年現地視察の後、「晩成社」移民団の一行 13 戸 27 名がオベリベリ(帯広村)に入植したのは明治 16 年(1883)5 月のことでした。開墾は干ばつ、長雨、害虫などに見舞われて難渋をきわめるもので、多くの脱落者がでました。しかし勉三は、明治 19 年(1886)には大樹町に当縁(とうべり)牧場を開いて酪農に取り組み、さらに明治 28 年(1895)ころから水稻の試作を重ねて、幕別村に晩成社途別農場をスタートさせています。その後、明治 35 年(1902)にはバターなどの製造を開始、さらに 3 年後に練乳工場やサイロを構築、明治 44 年(1911)には缶詰工場も創業するなど、多くの苦難を乗り越えさまざまな事業に着手しています。しかし、いずれも事業としては実りのないままに、勉三は晩年中風に倒れ、大正 14 年(1925)12 月 12 日、73 歳の生涯を閉じます。いまは、帯広市共同墓地に眠っています。「晩成社」の事業としては、失敗の連続であったといわれます。しかし今日、依田勉三の苦闘は十勝農業のパイオニアとして高く評価されています。

今回は、この不退転の決意で、北海道十勝の開墾に生涯を捧げた「依田勉三」にスポットライトをあててみたいと思います。

■まえがき

蝦夷地(北海道)には、古くからのアイヌ民族の豊かな歴史と文化がありました。しかし、アイヌ民族は文字記録を持たないために、その歴史は、遺跡からの出土品や、アイヌの伝承、そして 13 世紀頃からの和入(シサム・シャモ、日本人)との交易の歴史などを通して、和入の視点から記述されたものから推定するだけで正確なところはわかりません。

江戸時代末期になって、近藤重蔵(1771~1829)の東蝦夷・択捉島の探検(1798 年「大日本恵土呂布」の標柱を立てる) <1799 年、幕府の東蝦夷地直轄化>や伊能忠敬(1745~1818)の蝦夷測量(1800)、続いて最上徳内(1754~1836)や富山元十郎などの千島列島探検(1801 年「天長地久大日本七属島」の標柱を立てる)などがありました。 <1802 年、幕府、蝦夷奉行を置く、後に箱館奉行となる。>

その後、ロシアのニコライ・レザノフが日露通商を要求、続いてロシアの択捉島・樺太上陸による

略奪、放火（フォボストツ事件）などがあり、幕府は警備を強化します。1807年、西蝦夷地を直轄化、箱館奉行を廃止して松前奉行を置きます。1808年、幕府が最上徳内(1754～1836)、松田伝十郎、間宮林蔵(1775～1844)を相次いで樺太に派遣します。(この時、松田伝十郎が樺太最西端ラッカ岬に「大日本国国境」の標柱を立てたといわれます。)

その後、ゴローニン捕獲事件(1821～1823)と高田屋嘉兵衛の活躍などがあり、日露関係の緩和を受け、幕府は蝦夷地を松前藩に返還。1854年日露和親条約締結、北海道は日本領、得撫島(ウルップ島)以北の千島列島がロシア領に決まりますが、樺太方面の国境は未確定でした。1865年岡本監輔が樺太最北端ガオト岬に至り「大日本領」と記した標柱を立てたといわれます。しかし、日露関係は緊張のまま新しい時代を迎えます。

明治元年(1868)1月の京都鳥羽伏見の戦いにはじまる戊辰戦争は、2月上野の彰義隊の戦い→8月会津戦争・飯森山白虎隊自刃→そして翌年5月の箱館戦争で終結します。明治2年(1869)7月、明治政府により開拓使が設置され、「北海道」と改称して新時代を迎えることとなります。

明治政府は北海道開拓とロシアの南下に対する北方警備のため、移民政策をすすめます。屯田兵(有事には軍隊となる開拓民)の募集も開始し明治8年(1875)5月には、琴似屯田兵村に、仙台亙理藩・会津斗南藩・庄内藩士族の第1陣965人が入植しています。以後北海道には最終的に37の兵村ができ、合計約4万人が入植します。<明治37年(1904)屯田兵制度廃止>

明治10年(1877)以降、北海道移住の新しい流れの一つとして、失業士族対策の結社移民があります。明治12年(1879)、和歌山県士族岩橋徹輔の「開進社」による道南の乙部、長万部、岩内への入植。次いで明治13年(1880)、兵庫県士族鈴木清の「赤心社」による日高の西舎、荻伏への入植、さらに明治19年(1886)新潟県「北越植民社」の野幌入植などが続きます。ここでは、明治16年(1883)5月、十勝に入植した依田勉三の「晩成社」の苦闘の歴史をいろいろな資料を参考にご紹介したいと思います。

■依田勉三の生立ち

依田勉三は、ペリー来航の嘉永6年(1853)5月15日、伊豆国那賀郡大沢村(現在の松崎町)の豪農依田善右衛門の三男として生まれています。長男佐二平(二男は夭折)。三男勉三の幼名は久良之助。兄弟姉妹11人。依田家は、もと甲斐武田勝頼の重臣でしたが、天目山の戦いで織田軍に敗れた後、大沢の地に帰農したといわれます。

勉三は幼くして両親と死別し、7歳年長の兄佐二平に養育されます。漢学者の養伯父土屋宗三郎(三余)が開いていた「三余塾」で漢籍を学びます。<安政6年(1859)7歳のとき三余塾入門、久良之助から勉三に改名。>幕末の伊豆は二宮尊徳の農本思想の影響が強く、この幼少時代から三余塾で、農本思想と開拓精神が勉三に植えつけられたものと思われます。明治5年(1872)8月、「謹申学舎」(塾長は元会津藩家老西郷頼母)に入塾。そこで、幕末の二宮尊徳が幕府から蝦夷地開拓の要請を受け、その門下生の大友亀太郎が開墾事業に活躍したことや函館戦争で官軍に敗れた榎本武揚の「蝦夷共和国」構想の話などを聞いて刺激を受けたといわれます。後、上京し、明治7年(1874)22歳のとき慶応義塾に入学して福沢諭吉の薫陶を受けます。福沢諭吉は独立自尊を説き、人口激増・食料不足を補うために北海道を大いに開拓すべきことも語ったようです。<また諭吉は、友人榎本武揚の助命嘆願にも努めています。>勉三ははたばたに開拓報国の念を強くし、明治8年(1875)すぐれた北海道開拓の全体構想を示した「ケプロン報文」(明治4年・明治6年・明治8年)「報文要略」(明治8年)に出会い、北海道開拓に生涯を賭ける決意を固めたといわれます。同年末、洋学勉強のため、英国人牧師ヒュー・ワッデル(1840～1901)の「ワッデル塾」で英語を学びます。そしてこの英学塾で、後の

「晩成社」の3幹部となる依田勉三(24歳)・鈴木銃太郎(21歳)・渡辺勝(23歳)の出会いがあったようです。勉三はその後脚気と胃病のため中退して郷里に帰ります。

兄佐二平は、後に郡長、銀行頭取、汽船会社社長、国会議員などの要職を努めた人物ですが、この兄佐二平を手伝い洋学校の創設に尽力、明治12年(1879)1月15日に私立「豆陽学校」(現在の下田北高校)として開校、学校経営を助けます。佐二平が校長、渡辺勝を教頭として招き、勉三は教諭になります。この年4月、勉三26歳は義妹リク16歳と結婚します。勉三は教鞭をとるかたわら、開拓使次官後に長官となった黒田清隆が招聘したケブロン視察報告書(730頁)を読んだり、新しい札幌農学校の様子を聞き及ぶにつけ、北海道開拓への思いに若き青春の血の沸き立つのを覚えたといわれます。

■晩成社の設立へ

勉三は明治14年(1881)8月17日28歳、単身北海道へ渡り現地調査をしています。当時、北海道は石狩原野の開拓中心で、開拓使の役人は、札幌付近の苗穂村を推薦しています。しかし、勉三はこの申し出を断わり、十勝地方を中心にして道内各地を視察しています。そして伊豆に帰ると、十勝が将来性に富む土地であることを一族に力説し、明治15年(1882)1月、北海道での農場建設を目的とする「晩成社」(資本金5万円、今日の150億円に相当する大金)を設立したのです。兄佐二平社長、勉三副社長。社名は「火器晩成」に因み、開拓には長い時間がかかるが、必ず成功してみせるという願いをこめたものといわれます。渡辺勝と鈴木銃太郎は、ワッデル塾以来の親友で、のちに晩成社の3幹部として十勝の広野で共に活躍することになります。明治15年(1882)5月、勉三は鈴木銃太郎と共に、再度、札幌県庁に土地貸し下げ手続きのため来道しています。〈当時の北海道は、明治15年2月開拓使廃止、札幌県・函館県・根室県の三県となり、明治19年1月三県廃止、北海道庁設置。という状況〉開拓使時代から勉三の十勝開拓に協力した内田瀨技師(札幌農学校一期生)の骨折りなどで、十勝原野の中心部に「晩成社」入植の土地が決まったのでした。明治政府から未開地の無償払い下げを受け、今後15年間で一万町歩を開墾するという壮大な計画を立てています。7月16日、十勝川をさかのぼり帯広村に着き、開墾予定地を定めて、鈴木銃太郎は帯広に1人残り、勉三は伊豆へ帰国しています。当時の帯広はアイヌが10数戸約50人と和人が1戸あっただけといわれます。銃太郎はアイヌに助けられて豆や麦などを栽培して、一冬を越し、移民団の到着を待ちます。一方静岡では渡辺勝が移民募集をしていました。

■「晩成社」移民団の入植 開墾

明治16年(1883)4月9日、出発前日渡辺勝(29歳)と銃太郎妹鈴木カネ(25歳)との結婚式を勉三(30歳)・リク(20歳)夫妻の媒酌で行います。そして依田勉三(30歳)を団長とする「晩成社」移民団の一行13家族27名は、4月10日出発します。勉三・リクは2歳の俊介を義姉ふじに預けますが約半年後に夭折しています。一行は汽船「高砂丸」で横浜港を出港、4月14日函館に到着。その後陸海二手に分かれて帯広に向かいます。陸路隊は依田勉三隊長以下16人、海路隊は渡辺勝隊長以下11人で、それぞれ苦難の末、1ヶ月後の5月14日オベリベリ(わき水の流れる口の意、現在の帯広市)に着いています。全員が揃ったのは、5月20日でした。こうして、1年前から十勝に1人残って越冬していた鈴木銃太郎を含めて14戸、28人が最初の入植者となりました。「晩成社」移民団の中心となった勉三、銃太郎、勝・カネといった人たちは、当時の移民の中では数少ない高学歴のインテリでした。彼らは、入植後の苦闘の生活の中でも「ケブロン報告書を読む」「聖書を読む」「新聞を読む」という記述がその日記に、克明に書かれています。彼らは、なんと「ケブロン報文」や「聖書」を携えて入植した教養人でした。

明治16年(1883)、十勝開墾に入植した一行は、干ばつに加えて、野火、イナゴの大群、兎、鼠、鳥などの被害でほとんど収穫がなかったといわれます。この年10月17日に遅れて鈴木親長(63歳)・カネ親子、

勉三の弟文三郎などが入地しています。親長 銃太郎・カネ、渡辺勝は洗礼を受けた熱心なクリスチャンでした。この信仰心が未開地入植の大きな精神的支柱になったようです。勝と結婚したカネは横浜の共立女学校（ミッションスクール）英学部を出た才媛で、入植後は、熱心に社員とアイヌの子供たちにも読み書きを教え、「十勝開拓の母」と称されたそうです。＜教え子の山本金蔵が札幌農芸伝習所に学び、その時送った大豆数粒が、後の十勝一大生産物となる。＞明治17年(1884)もまた絶望的な状況で、開墾は遅々として進まなかったといわれます。当時の帯広は奥地すぎて陸の孤島に等しく、勉三が大津(現在の豊頃町)に貯蔵してあった米の輸送も困難な状況でした。＜帯広～大津間の道路は、十勝集治監の囚人労働によって明治26年(1893)になってやっと開通しました＞ この飢餓の中で、勝が「落ちぶれた極度か豚とひとつ鍋」と詠んだのを、勉三が「開墾の始めは豚とひとつ鍋」と改めた歌は、今日も広く知られています。この間、多くの脱落者が出てたため、勉三は繰り返し開拓の精神訓話を試みたといわれます。妻リクは病氣療養のため明治18年(1885)9月 勉三に函館まで送られて伊豆に帰ります。翌明治19年(1886)帯広視察に来た依田佐二平に銃太郎が、晩成社改革を提言するも拒否されて、幹事を辞任しています。その後、銃太郎(31歳)はアイヌの酋長娘コカトアン(21歳・常盤と改名)と結婚して晩成社を去り、明治22年(1889)からシブチヤ(現在の芽室町)に定住、農場を開いて芽室町の草分けとなったといわれます。渡辺勝も明治26年(1893)から帯広を離れて、然別村(現在の音更町)に定住し、牧場経営をはじめています。



帯広神社前中島公園にある依田勉三の銅像（2008年1月撮影 帯広百年記念館提供）

■生花苗(おいかまない)の酪農経営

明治19年(1886)5月、このまま帯広には社業が不成功に終わることを心配し、勉三は弟の文三郎とともに、食料不足打開のため、帯広から約40キロ離れた当縁(とうべり)村生花苗(おいかまない)現在の(大樹町晩成)に牧場を開いて酪農に取り組みます。明治35年(1902)にはバターなどの製造をはじめ、3年後には練乳工場やサイロを建て、明治44年(1911)には缶詰工場も創業するなど、この牧場でさまざまな事業に自らの損失を忘れて着手しています。しかし、晩成社の経営としては上手いかなかったようです。

この間に、明治20年(1887)には、弟文三郎が伊豆へ戻り翌年病没しています。そして明治22年(1889)に妻リクが4年間伊豆で療養して帯広に戻っています。明治25年(1892)頃には、ようやく状況も好転し食料も足りるようになり、小豆・大豆の収穫もめどがつくようになったといわれます。しかし、晩成社設立当初の15年で1万町歩を開墾しようという目標には遠く及ばず、10年かかって30町歩を開墾するのがやっとでした。同年(1892)11月、依田佐二平・勉三兄弟が緑綬褒章を授章したのを機に、奮起して晩成社の事業拡大を計画。明治27年(1894)函館に「丸成牛肉店」を開業して6年間滞在します。この年病氣再発のリクと「愛ある」離婚、療養のため伊豆へ帰っています。その後世話する人があって、翌年函館生まれで二人の娘を持つ馬場サヨと再婚しています。勉三・サヨの間に千世という男子が生まれますが、わずか二ヶ月で病死、勉三は結局実子には恵まれていません。養子は数名いたようで、後に嫡子とした佐藤八百をキク(養女)と結婚させています。その後さらに、当別村に畜産会社を設立、帯広には木工場を作り(別村現在の音更町)にも牧場を開いています。

■途別農場の稲作成功

このころ、勉三は、北限の地で水稻の試作を重ね、明治33年(1900)には幕別町途別(現在の幕別町)に「晩成社途別農場」をスタートさせています。明治37年(1904)には、冷害に強い黒毛品種「香(におい)早稲」を発見したのでした。そして、明治40年(1907)ころには30町歩の水田を作りますが、冷害・凶作が続いたため多くの小作人が去り残ったのは、勉三と2人の小作人だけになったといわれます。しかし勉三は決して希望を捨てず、大正4年(1915)からはサヨとともに途別の掘建小屋に住み込んで、排水溝・水路の改修、小作小屋の改築などの基盤整備に取り組みます。この時、実に5年がかりで約8キロメートルに及ぶ灌漑溝を完成させています。この地道な努力を続けて、少しずつ水田経営も軌道に乗るようになったのでした。しかし、晩成社の経営きびしく、大正5年(1916)には売買(りかり)農場<帯広南東部>等売却します。

大正9年(1920)11月に、勉三は途別農場の一応の成功を記念して祝宴を開いています。久しぶりに鈴木銃太郎や渡辺勝など晩成社同志12人が顔を合わせて、勉三の成功を心から祝ったといわれます。この時、勉三は68歳になっていました。苦難つづきの晩成社の開拓の歴史の中で、この日だけが勉三最良の日であったといわれます。しかし、至福の時は束の間で、勉三には晩成社の所有地売却など経営難の苦勞が続きます。

■勉三倒れる

勉三は、大正13年(1924)、春より中風にかかります。9月16日、看病疲れで、サヨが先立ちます。その後リクが伊豆から来ますが、勉三と口論となり12月に再び伊豆に戻っています。<この年10月15日、兄佐二平没。>その後病勢は日ごとに悪化して、大正14年(1925)12月12日、十勝開拓45年に苦闘の生涯を捧げた依田勉三は、帯広町西2条9丁目の自宅で、晩成社にはなにも残らん。しかし、十勝野には…と語り静かに息を引きとったといわれます。享年73歳でした。リクは養子政雄を伴って葬儀に来て、嫡子八百夫妻の世話でそのまま広尾に住み約9年後の昭和10年(1935)11月3日、73歳の薄幸な生涯を閉じ、八百の手によって葬儀が行われたということです。<鈴木銃太郎は大正15年(1926)6月13日71歳没。

渡辺勝は大正 11 年(1922)6 月 15 日 69 歳没。カネは昭和 20 年(1945)12 月 1 日 83 歳没。>

■「晩成社」十勝開拓の遺産

晩成社設立当初の 15 年間の開拓目標は、その後 25 年に延期され、借金も雪ダルマ式に増えて大正 2 年(1913)には当時のお金で負債額 17 万 8 千円に達したといわれます。さらに 50 年に引き延ばされても成功せず、昭和 7 年(1932)、創業 50 年満期となり莫大な負債をかかえて倒産同様に解散しています。晩成社員に残された土地も、出資者への配当もなく、勉三所有の土地も一坪もなく、すべて自作農への開放と借財の返済にあてられたのでした。しかし、勉三が、若き日、慶応義塾の福沢諭吉の薫陶を受け「ケプロン報文に出会って北海道開拓の決意を固めた ますらをが心定めし北の海風吹かば吹け浪立たばたて」の決意は、入植以後約半世紀すこしも揺るがず、十勝開拓の先駆者として、開拓済民の使命感をもって困難な開墾作業にあたり、さらに役所の手続き、農作物の種子肥料・牛馬豚の買い付け、小作人集めなどに東奔西走した苦闘の生涯は、今日のあらゆる十勝産業の基盤整備の「礎」と高く評価されています。

[補足資料]

伊能忠敬(1745~1818)は、1800 年(寛政 12) 56 才のときの蝦夷地測量から 72 才まで、10 回に及ぶ日本全国の測量をして、有名な「大日本沿海輿地全図」完成(没後 1821)しています。
間宮林蔵(1775~1844)は、伊能忠敬に測量を学び、西蝦夷地、択捉島、松田伝十郎に従って樺太を探索、1809 年(文化 6)には単身海峡「間宮海峡」(タートル海峡)を渡り樺太が島であることを確認したといわれます。
松浦武四郎(1818~1888)は、1844 年蝦夷地探検に出発。その探査は北海道各地、択捉島や樺太にまで及び、1855 年「東西蝦夷山川地理取調図」を出版しています。後に 1869 年開拓判官となり、蝦夷地を「北海道」と命名、アイヌ語の地名をもとに北海道各地の国名・郡名を選定しています。

<参考文献及び参考資料>

・「十勝開拓史」萩原寛編 名著出版 ・「帯広市史」帯広市 ・「依田勉三の生涯」松山善三著 ・北海道の歴史 榎本守恵著 北海道新聞社 ・星霜 2 北海道史明治 2 1875-1985 北海道新聞社 ・「ほっかいどう百年物語」STV ラジオ編 中西出版 ・明治の群像 8 開拓と探検 高倉新一郎編 三一書房 ・「北海道の歴史散歩」北海道高等学校日本史教育研究会編 山川出版社 ・「風吹け、波立て」松本晴雄著 映画 新しい風ー若き日の依田勉三ー 平成 15 年)松竹映画 DVD その他インターネット資料など

* 依田勉三の出身地静岡県松崎町の歴史研究家松本晴雄氏より貴重な諸種の資料提供・ご教示を頂きました。

依田勉三を記念するもの

■「途別水田の碑」・「徳源地」の碑

依田勉三が北限の水稲の試作を重ね、明治 33 年(1900)にスタートさせた「晩成舎途別農場」(現在の幕別町依田地区)。苦労の末黒毛品種の栽培に成功して大正 9 年(1920)11 月、この地で祝宴を開いています。この碑は大正 9 年(1920)9 月晩成社によって建てられたもの。この地を「徳源地」と命名しています。兄依田佐二平の撰文で、道北地区に元禄時代に入植した伝長坊の努力、その師佐藤信景のことを述べ、晩成社の勉三が長年苦労の末稲作成功の今日を迎えた功績を讃えている。(碑文は漢文表記)

■依田勉三の銅像

晩成社所有地跡、現在は帯広神社前中島公園に立てられています。帯広出身の歌手中島みゆきの祖父中島武市が土地と銅像建立の費用すべてを負担して完成させたもの。彫塑者田嶋碩朗(たじませきろう)は北大のクラーク胸像の制作者でもあります。完成除幕式は昭和 16 年(1941)6 月 22 日。しかし太平洋戦争中金属献納で供出、現在のものは昭和 26 年(1951)7 月に再建されたものです。

(碑文) <撰文は初代北大総長 佐藤昌介>

功業不磨

依田勉三君ハ伊豆ノ人、夙(つと)ニ北海道開墾ノ志アリ、明治十五年晩成社ヲ組織シ自ラ一族ヲ率キテ此地ニ移住ス、凶歳相次キ飢寒身ニ迫ルト雖モ肯テ屈撓セス移民ヲ慰撫激励シテ原野ノ開拓ニ努メ東ニ水田ヲ開キ、酪農事業ヲ興シ諸種ノ製造工業ヲ試ムル等十勝開墾ノ翹楚トシテ克ク其ノ範ヲ示ス十勝国ノ今日在ルハ君ノ先見努力ノ賜ナリ岐阜県人中島武市、此ノ勞効ヲ欽仰シ、私財ヲ投シテ之ヲ永遠ニ讃ヘントス誠ニ宜ナリト言フヘシ

■「北海道開拓神社」37 番目の祭神となる

北海道神宮境内の「開拓神社」は、昭和 13 年(1937)8 月 14 日、本道開拓に貢献した 36 柱の祭神を祀るため建立されました。戦後になって札幌市議会議長福島利雄、三原武彦(写真家鈴木真一の孫)などが中心になって十勝開拓の祖、依田勉三の合祀運動を起こして、昭和 29 年(1954)9 月 22 日、37 柱目の祭神として合祀されました。

■「依田勉三翁頌徳之碑」(幕別町依田地区)

十勝開拓の先駆者依田勉三の功勞を讃えて、「十勝晩成会」が十勝開田の地である依田部落、「徳源地」に、昭和 59 年(1984)11 月に建設したものの。(碑文) <撰文は十勝晩成会副会長 棚瀬善一>

頌徳之碑の由来

十勝開拓の先駆者、依田勉三翁は嘉永六年五月十五日、伊豆国那賀郡大沢村に生れ、大正十四年十二月十二日帯広町西二条十丁目の自邸で逝去された。享年七十三才である。

依田家は伊豆屈指の旧家豪農で祖先は甲斐の武田氏に仕えた武家であったが、のち伊豆国那賀郡に帰農した。翁は幼少より漢学者土屋宗三郎の三餘塾に学びまた旧会津藩家老保科正惠の謹申学舎で教をうけた。長じてワッデル塾に入り語学を修めこの時後に晩成社幹部となった。

鈴木銃太郎、渡辺勝の両氏と交わりを深めた。上京して慶応義塾に学び、福沢諭吉先生の薫陶をうけ、さらにその頃伊豆地方は二宮尊徳翁の農本思想の影響がありその感化をうけ、開拓報国の雄志を抱くようになった。明治十四年、北海道開墾の宿志を家人に語り同意を得て単身本道開拓地を探索した。翌十五年一族で晩成社を組織し副社長となり、鈴木銃太郎氏と再度渡道し十勝川をさかのぼり、原始境であった帯広を開拓地と定めた。明治十六年翁は渡辺勝氏と開拓団一行を率いて入地し筆舌につくせぬ苦難な開墾が始められた。以来半世紀近く翁は絶望を知らぬ志をもって失敗を重ねつつも次々と事業をおこし、今日十勝におけるあらゆる産業の源流ともいえる事業に心血を注いだのである。

このたび多年の念願であった翁の功績を顕彰感謝するとともにまた十勝開拓につくされた幾多の先覚者の功勞にもおもいをいたしここに頌徳之碑を由緒深き徳源地に建設のはこびとなった。

翁の十勝開田の地である依田部落、徳原地組合十勝晩成会幕別町と相計り協賛の方々の賛同を得て建設したことを記す次第である。 昭和五十九年十一月二十三日

■晩成社史跡(大樹町生花苗^{おいかまな})

十勝開拓の祖と呼ばれる依田勉三がこの地に牧場を開いたのは明治 19 年(1886)。復元された住居や句碑があります。「依田勉三翁住居」は、明治 26 年(1893)～大正 4 年(1915)まで勉三が住んでいた住居で、平成元年(1989)10 月に復元されたもの。また勉三が食料不足のため牛 20 頭を死なせた供養の「祭牛之霊碑」や勉三の「ふみまなぶ 学び子らが うえおきし 園生のもみじにほひそめけり」と詠んだ「もみじひら」の歌碑、サイロ跡などがある。

■「帯広発祥の地」の碑

帯広川の河畔、現在の国道 38 号線と南 6 丁目線が交差するあたりに建っています。勉三の「開拓

の始めは豚とひとつ鍋」の歌も刻まれています。

■昭和 53 年(1978)5 月、帯広市と静岡県松崎町、「開拓姉妹都市提携」を結ぶ。

■映画「新しい風―若き日の依田勉三―」(松竹映画配給)

平成 15 年(2003)作成。帯広開基 120 年記念。第 38 回ヒューストン国際映画祭グランプリ受賞。

■十勝開拓の祖 依田勉三に因む「六花亭」(本社帯広)のお菓子

- ① 「マルセイバターサンド」北海道産のバターを主原料に、レーズンとホワイトチョコレートを含ませたビスケットでサンド。菓名は、明治 30 年代に十勝開拓の祖、依田勉三翁経営の牧場で作られたバターのパッケージ(包装紙複製)に因んでいます。
- ② 「ひとつ鍋」菓名は、依田勉三翁が開拓当時によんだ句「開墾の はじめは豚とひとつ鍋」に因み、お鍋をかたどった最中に餡と小さなお餅 2 個を入れたものです。
- ③ 「丹三戸」明治 16 年、帯広開拓のために依田勉三を団長とする晩成社移民団が入植した 13 世帯 27 名に因む。初雪の舞うわらぶきの民家をイメージしたもの。
- ④ 「匠作」バター、ミルク、卵を加えた桃山。開拓当時、春一番に咲く福寿草は「まず咲くがなまって匠作」と呼ばれました。これは、依田勉三の「匠作や 何処から鎌を おろそうか」の句に因んだもの。

平成 19 年度 第 3 回 国際交流ランチセミナー 記録(抄)

“世界各国の旧正月”～異文化理解のふれあい～

日 時 平成 20 年 2 月 9 日(土) 11 時～14 時
会 場 中華「運城飯店」札幌市東区北 24 条東 15 丁目

<ゲスト>	ミエン	(ベトナム)	JICA 海外技術研修員 (M)
	アリーフ	(インドネシア)	JICA 海外技術研修員 (M)
	ブディー	(インドネシア)	JICA 海外技術研修員 (M)
	キン	(ラオス)	JICA 海外技術研修員 (F)
	ハロルド	(マラウイ)	JICA 海外技術研修員 (M)
	チェ ボンリン	(韓国)	小樽商科大学留学生 (M)
	ショウ キョウラン	(中国)	小樽商科大学留学生 (F)
	ジ スンピル	(韓国)	北海学園大学留学生 (F)
	チョウ ケンカ	(中国)	北海学園大学留学生 (F)
	ソウ テキ	(中国)	北海学園大学留学生 (F)
	ナイダン ビヤムバドルジ	(モンゴル)	北大大学院(法学部) (M)

概要: この国際交流ランチセミナーは、マサチューセッツ州とのつながりに基本理念を置き、2001 年(平成 13 年)から、広く多国籍の北海道在住外国人をゲストとしてお招きして、国際交流や異文化理解の問題を論じ、会員同志の意見交換・交流の場にもなることを目指しています。すでに 20 回開催しています。今回は 21 回目です。

今回は、札幌国際センターの JICA 海外技術研修員 5 名、小樽商科大学留学生 2 名、北海学

園大留学生 3 名など合計 11 名のゲストをお迎えして、国際色豊かな楽しい時間を過ごしました。ここには紙面の都合で、各国ゲストの「旧正月」についてのスピーチのみをご紹介します。今回の参加者は、合計 38 名でした。(通訳は、当協会会員・岩崎 修子さん)

〈国際交流ランチセミナー「世界各国の旧正月」の趣旨〉

今回は、「世界各国の旧正月」をテーマにしました。世界には、グレゴリオ暦(新暦)の1月1日を新年初日としない伝統文化の国が多くあります。中国の「春節」(2008年2月7日)をはじめ、韓国・ベトナム・ラオス・インドネシア・モンゴル・イスラム教の国・キリスト教の欧米諸国や日本の旧正月などについて、多国籍のゲストをお迎えして、皆さんと一緒に勉強しました。

日本では、現在は、暮れの12月29日~31日から「お正月(1月1日~3日)」にかけて、ふだん離れている家族もみんな実家に帰り、家族そろって神社に初詣をし、無事をお祝いします。〈地方によっては旧正月の行事を大事にしているところもありますが。〉そのため年末の帰省と年始のUターン時は全国的に大交通渋滞となります。(また、先祖を祀る大事な仏教行事・夏の「お盆(8月13日~16日)」も同様大交通渋滞となります。「盆」と「正月」には、みんな里帰りします。)

中国・韓国・台湾において重要なのは、旧正月(春節)であり、香港やシンガポールなど中国系文化圏でも旧暦の正月にお祝いをするのがほとんどといわれます。モンゴルの旧正月は、モンゴル暦の年初「ツァガンサル」(2008年2月7日)なので他国と異なることが多いとされます。

欧米では、新暦のお正月(新年初日)よりも、クリスマス休暇<12月24日~25日あたりから1月1日~2日、一定ではない>が家族にとっては重要とされます。

1 アリーフ (インドネシア)

こんにちは。日本語を話せなくてすみません。まず自己紹介をします。私はアリーフと申します。フルネームは、少し長いのですが、アリーフ・セチアワン・ブディ・ヌグロホとなります。誤解のないよう申し上げますと、最後の名前、ヌグロホは名簿には大文字で書いてありますが、名字ではありません。インドネシアのジョクジャカルタ市出身です。ジャワ島の中心部にあります。北海道大学博士課程で学んでおりまして、こちらに来て10ヶ月になります。あと2年2か月滞在する予定です。

まずは今日ランチセミナーにお招きいただきましたことを北海道・マサチューセッツ協会に感謝いたします。今回で2回目の参加となります。前は小樽に行きまして、いろいろなひとと知り合いになれ、楽しく過ごしました。では、インドネシアの新年のお祝いについてはとなりの友人に説明をまかせます。

2 ブディ (インドネシア)

私はブディと申します。私も北海道大学の留学生です。〈ここまで日本語〉博士課程で勉強しています。こちらには昨年10月に来まして、今回が初めて経験する冬になります。ジャカルタから車で2時間のバンドウン市から来ました。今回お招きいただきましてありがとうございます。

インドネシアでは新年の祝い方のきまったやり方はありませんが、家族で集まることが多いです。大晦日の日に家族が集まって、去年はどんな一年であったか、来年に望むことは何かなどを話し合ったりします。それがインドネシアでの一般的な新年のお祝いとなります。アリガトウゴザイマシタ。

3 キン (ラオス)

みなさまこんにちは。キナレス・ボングチャンと申します。キン、と呼んでくださって結構です。ラオスのチャンパーサク県という南部の州からまいりました。日本に来るのは初めてです。このようにとても寒い所に来ましたが、雪を見るのも初めてでうれしく思っています。

ラオスでは独自のラオス正月(新年)をお祝いします。それは4月の13日から16日の間です。その新年の祝い方は、お互いに水をかけあい、それからお寺やパゴダにお参り行きます。それでこのことをウォーター・フェスティバルと呼びます。ラオス人にとって大きなお祭りなのでみんなこの日を心待ちにします。家族が集まる日でもあるので、離れている家族もみんな集まって一緒に過ごし、新年のお祝いをします。そして両親にでも他の家族のだれにでも、何かまちがったことをしたことがあった場合にはあやまって許しを乞います。その日にはみんなビールを飲みます。新年はとても楽しい日です。これでラオスの新年のお話をおわります。ありがとうございました。

4 チョウ ケンカ (中国) <日本語でスピーチ>

みなさんこんにちは。まず今日こういうすばらしい会に参加させていただいて本当にありがとうございます。さっそくですが中国の旧正月を紹介したいと思いますが、3人ということで、私は子どもにとってのお正月を紹介したいと思います。

まずこちらに実物がありますが、これが子どもにとって非常に楽しみな爆竹です。こちらが導火線ですが、これに火をつけるとすごい音を立てながら連続して爆発します。すごいダダダという音で、この音が一年の悪い鬼をぜんぶ外に追い出すという感じで、おもに昔は家の正門とかでこれに火をつけました。このほかにも、日本の花火のようにきれいなものもあります。それから、なんといっても子どもたちにとっての一番の楽しみはお年玉です。朝になったら、おじいちゃんおばあちゃん、お父さんお母さんに新年のあいさつをして、お年玉をもらいます。そのためには大晦日の夜から起きてなくてはなりません。寝ると眉毛が白くなるからダメといわれます。でも子どもですから11時12時には寝てしまい、お母さんが小麦粉を眉毛につけたりして、あら大変！ということになったりして、私も経験があります。それからこちらに飾ってある灯籠は、旧暦の1月15日の楽しみです。沢山の灯籠に火を灯したりするのです。子どもにとってのお正月について簡単にお話させていただきました。

5 ショウ キョウラン (中国) <日本語でスピーチ>

みなさん、こんにちは。私は中国から来た交換留学生でショウ・キョウランと申します。小樽はすごくきれいな街だと思います。寮の窓からは海が見えますので、毎日美しい景色を満喫しています。

今日は春節の飾りと食事について、ちょっとお話したいと思います。ふつうの春節の飾りとしては、家とかお店の窓に「福」という文字をさかさまにして貼っているのをよく見かけます。なぜかという、中国語で上下をさかさまにするのと「到来」の「到」が同じ発音なので、福が来るようにという願いがこめられているからです。まためでたい語句が対応したものを入口と柱の両側にかけます。街の中で灯籠をかけることで春節の雰囲気があふれてきます。大晦日の晩、家庭ではふだんより一段と贅沢な食べ物が食卓に並びます。特に、「魚」と「鶏」は欠かせません。なぜかという、中国語で「余り」と「魚」はおなじ発音なので、新しく迎える年が、あまりがあるほど豊かな生活ができる年なるようにと魚を食べます。また「吉」と同じ発音の「鶏」も食べる習慣があります。15日の夜は、もち米粉を使った餡入り団子を食べます。今年の春節は2月7日から始まりましたので、今日で3日目です。ここで中国語で新年のあいさつをさせていただきたいと思います。「過年好(グオニエンハオ)！」ありがとうございました。

6 ソウ テキ (中国) <日本語でスピーチ>

みなさんこんにちは。中国からの留学生、ソウ テキと申します。私の出身地は大連です。たぶんみなさんご存知かと思いますが。中国の正月は今さまざま形で進んでいます。さっきの二人が紹介したのは、伝統的な中国様式です。そのような伝統的な旧正月も残っていると同時に、新しい正月の過ごし方も徐々に発展しています。

大連には日本の企業も数多くあり、日本人も旧正月をお祝いし、中国式に餃子を食べたりテレビを見たり忘年会をしたりして過ごしています。大晦日には、家族がみんな集まってすごしますが、最近では、若い人たちは、友達同士で旅行したりもします。また子どものいない若夫婦などは国内や海外に旅行することもあります。以上で中国での伝統的な過ごし方と新しい過ごし方を紹介させていただきました。ありがとうございました。

7 チェ ボンリン (韓国) <日本語でスピーチ>

みなさまこんにちは。チェ・ボンリンと申します。日本に来るのはこれが初めて、こちらには去年の9月に参りました。小樽商科大学で学んでいます。小樽はとても素晴らしいところで、札幌も素晴らしいと思います。隣に立っているジ・スンピルさんとは学校も住んでいるところも違うのですが、まったく問題ありません。というのも韓国人はとても結びつきが強いので、住む場所が離れていても大丈夫なのです。北海道・マサチューセッツ協会の皆さん、今日はお招きいただきましてありがとうございました。韓国の旧正月のお祝いについては彼女にお任せします。

8 ジ スンピル (韓国) <日本語でスピーチ>

みなさん、こんにちは。ジ・スンピルと申します。韓国から参りました。韓国では旧正月は家族とともにお祝いします。離れている家族もその日には集まって、一緒にご馳走を作ります。先祖に感謝する日なので、食事のあとはお墓参りにゆきます。新年のお祝いにはトックッとと呼ばれる日本のお雑煮にととても似た料理を食べます。そして新しい年にむけての幸運を祈る言葉を交わします。子どもの一番の楽しみはやはりお年玉です。お正月は親族も集まってにぎやかに過ごします。ありがとうございました。



9 ハーロッド (マラウイ)

みなさん、こんにちは。ハーロッド・チガルと申します。マラウイから来ました。日本語が話せませんのでごめんなさい。来日前に5時間レッスンただけなのです。1月12日にこちらに来まして、4週間経ち

ますが、もう来週には帰国しなければなりません。こちらには 5 週間の滞在となります。マラウイには日本人がたくさんいて、農業や教育分野などで働いています。私はマラウイでたまたま日本人と一緒に働く機会がありまして、札幌の JICA の研修生として来ることになりました。

マラウイは他の多くのアフリカの国々と同様、貧しい国です。ふだん主食として食べているのは「シマ」という、とうもろこしの粉から作ったものです。マラウイではお米も栽培されているのですが、大変高価で、普段食べられるのはお金持ちの人だけです。けれどもお正月にはお米とチキンでお祝いしますので、そのためにお金をためて準備をします。お正月には教会へ行きますが、その後はビールを飲んで楽しみます。アルコールを飲めない人はコーラやファンタを飲み、飲んだビンを周りの人に見せびらかしたりします。でも貧しいからといって惨めなわけではありません。マラウイ人は陽気で楽しい人たちです。日本人とは、対照的な貧しい生活ですが、こちらにきたら皆さんマラウイの暮らしが大好きになります。マラウイには美しい自然もありますし、天然資源も豊富です。また、ゾウやシマウマ、カバ、サイもいます。みなさん、マラウイがどこにあるかご存知でしょうか。ぜひマラウイにいらっしやってください。ありがとうございました。

10 ビャムバドルジ (モンゴル) <日本語でスピーチ>

こんにちは。今日はお招きいただきありがとうございました。北海道・マサチューセッツ協会のランチセミナーに出席するのはこれで 2 回目です。各国の旧正月の過ごし方をいろいろと知ることができてとても楽しんでいます。みなさまに、そして特に事務局長の中垣さんに感謝申し上げます。

モンゴルの旧正月の過ごし方について紹介します。モンゴル人は遊牧民なので、もともと皆、私が今着ているようなこういう民族服を着て生活していたのですが、今日では、都市部に住んでいる人はお正月(旧暦)とモンゴル最大のお祭ナーダム(モンゴル革命記念日 7 月 11 日、12 日に相撲・弓矢・競馬を楽しむ)の年 2 回しか着ることがありません。モンゴルのお正月は 2 月 8 日が一日目でしたので、今日は 2 日目になります。お正月を迎えるときには、日本と同じように、家の大掃除をする習慣があります。家の中も外もすっかり掃除をします。大晦日の夜には親の家で家族一緒に過ごします。元旦の朝には、僧侶が新年の縁起のいい方角を占い、新聞・雑誌にはそれが載りますので、みんなそれを確認して、その年の縁起のいい方角へ向かって歩き、良い年になることを願います。新年の挨拶をするときは、一番年上のものが一番良い席に座ります。中垣さんとどのように挨拶をするのか実際にお見せしましょう。このように年上の方が布を両手にささげ持ちます。年下の方はその両手を下から持ちます。そして年長者が頬にキスをして匂いをかいで挨拶するのです。新年にはたくさんの人が訪問し合います。そして他人の家を尋ねるときはお土産をもっていき、そして新年のあいさつをします。男の人は「かぎたばこ」を持っていき、交換し合って健康や仕事がうまくいくことを願ったりします。以上モンゴルの旧正月の紹介です。ありがとうございました。

11 ミエン (ベトナム)

こんにちは。ミエンと申します。ベトナムのホーチミン市から参りました。JICA の研修生です。今回で 2 度目の参加になりますが、次回の行事には残念ながら参加できません。来月帰国しなければならないからです。ベトナムでは旧正月は大変重要な行事です。家族そろって過ごすのが伝統的なお祝いの仕方です。大晦日の夜には両親とともに子どもも遅くまで起きて過ごします。お正月には伝統的なもち米のお菓子を食べます。最初の日は比較的静かに過ごします。そして新年のお祝いの言葉を交わしてあいさつをしますが、2 日目になると少し賑やかになります。子どもは親の家でいっしょに過ごしますが、生徒だと先生と一緒に過ごします。最後になりますが、今日はお招きいただきましてありがとうございました。北海道・マサチューセッツ協会に感謝申し上げます。

平成19年度 第3回 国際交流ランチセミナー

「世界各国の和正月」～新しい異文化理解のふれあい～

日 時 平成19年2月9日 (土) 13時～14時
場 所 本館「国際交流」(北米連会館北3号館15F大会1-1)



キーンさん
長岡 隆雄さん
高川 寛子さん



小野 茂さん
阿部 由美さん
丹地あゆみさん
アソフさん
内山 聡子さん



岡田 真樹さん
野村 五郎さん
奥 さん
山下 敏子さん
藤村 洋子さん



ビームワイルドさん
山岡 嘉由さん
菅 さん
藤野 悦子さん
三上 さん
友田 朝さん
藤野もつ子さん



新井 敏子さん
橋 さん
渡辺 智恵さん
宇江 さん
小澤 敏次さん
内山北かほりさん



岩間 弘康さん
パウルさん
新藤高次郎さん
渡部 謙二さん
藤野 敏子さん
岡 さん



(北米連・マサチューセッツ協会)

佐藤久美子 中根正史 藤野悦子

北米連・マサチューセッツ協会
900-000 札幌市中央区北3条西1丁目 高野ビル15F
TEL 011-221-2282 FAX 011-221-2666
E-mail: koushokai@com.net.jp URL: http://www.com.net.jp/naas

Robbink Massachusetts Society
12F, Robbink Bldg. Annex Bldg. Nishi 1, Kita 3, Chuo-ku, Sapporo
TEL 011-221-2282 FAX 011-221-2666 E-mail: koushokai@com.net.jp

2008～2009 北海道・マサチューセッツ協会イベント(案)

2008 年

- 5月13日(火) 平成20年度 理事会・総会 (藤扇流日本舞踊・藤扇千女)
理事会(14:00～14:50) アトラクション(15:00～15:15) 総会(15:20～16:30)
会場：北農健保会館3階会議室「芭蕉」(札幌市中央区北4条西7丁目)
- 5月24日(土) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ ① 一円山八十八カ所・北海道神宮コース
地下鉄円山公園駅バスターミナル集合 10:00一円山公園歴史散策一円山八十八カ所登山一北海道神宮歴史散策一おとうふ工房「めめ」昼食会一解散 14:30
- 6月27日(金) 米国マサチューセッツ州ノーブルズ高校
～7月19日(土) 短期交換留学プログラム(先生・生徒一行12名来札予定)
札幌国際情報高校短期交換留学ホームステイを中心に、当協会の「国際交流ランチセミナー」「人形浄瑠璃教室」「歴史散策」などにも参加します。
- 6月28日(土) 第1回 国際交流ランチセミナー <北大構内散策：レストラン「エルム」>
北大正門前集合 10:30一新渡戸稲造メアリー夫妻寄贈ハルニレークラーク博士胸像一総合博物館見学一レストラン「エルム」昼食交流会一解散 14:00
- 7月23日(水) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ ② 一三角山～大倉山新コース
地下鉄西28丁目駅バスターミナル集合 10:00一(バスに乗る)一三角山宮の森側登山～尾根づたいに大倉山ヘリフトで下山一レストラン「らむ DINING 大倉山」昼食会一解散 14:30
- 8月12日(火) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ ③ 一時計台 ～ 新札幌市資料館コース
ホテル「ニューオータニ札幌」集合 10:00 一札幌農学校官舎跡一演武場跡・時計台一札幌市庁舎一大通公園美術散策一市資料館控訴院見学一後楽園ホテルレストラン「パティオ」昼食会一解散 14:30
- 9月13日(土) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ ④ 一藻岩山三十三カ所・山頂ミニコンサート
地下鉄円山公園駅バスターミナル集合 10:00一(バスに乗る)一観音寺一藻岩山三十三カ所霊場登山一「山頂展望台レストラン」昼食会・ミニコンサート一藻岩山神社一ロープウェイ下山一解散 14:30
- 10月25日(土) 第2回 国際交流ランチセミナー <ハロウィーン：レストランみもぎ>
アメリカの祭日「ハロウィーン October 31」をテーマにして、日本の伝統行事などと比較しながら、ハロウィーンの起源のお話やジャックオーランタン作りなども楽しみたいと思います。
- 11月12日(水) 北海道を知る歴史発見の旅シリーズ ⑤
一知事公館・ミニ大通・道庁赤れんが庁舎コース
知事公館前集合 10:00 一知事公館内及び庭園見学一北4条ミニ大通公園・サッポロロマネット北2条通り一知事赤れんが庁舎内見学(歴史説明)一京王プラザホテルレストラン「樹林」昼食会一解散 14:30

2009 年

- 2月14日(土) 第3回 国際交流ランチセミナー <バレンタインデー：会場未定>
バレンタインデーの語源・由来をテーマにして、世界各国のバレンタインデーの行事、さらに「ホワイトデー」「ブラックデー」「イエローデー」などについても外国人ゲストを囲んで一緒に食事をしながら話します。

事務局 短 信

札幌白石高校 ブラスバンド マサチューセッツ州へ

北海道とマサチューセッツ州の国際交流事業の一環として、札幌白石高校ブラスバンド一行(約100名)が、2008年3月23日(日)～31日(月)の日程で渡米します。マサチューセッツ州コンコードカーライル高校訪問交流・ホームステイを主として、ボストンシンフォニーホールでの両校ブラスバンド合同演奏会(28日)なども予定されています。

両校の交流は、コンコードカーライル高校の来札3回(1998年4月、2004年4月、2007年4月)そして札幌白石高校のマ州訪問2回(2003年1月、今回の2008年3月)という実績があります。

第4回ノーブルズ高校短期交換留学の先生・生徒一行来札予定(約3週間)

マサチューセッツ州ノーブルズ高校のグラハム先生グループ(先生2名、高校生10名)が6月27日(金)～7月18日(金)の日程で来札し、札幌国際情報高校に短期留学します。隔年毎のプログラムで今回は4回目になります。今回は当協会の第1回「国際交流ランチセミナー」(6月28日・土)にも参加予定です。

平成20年度 北海道・マサチューセッツ協会理事会・総会予定：5月13日(火)

5月13日(火)、北農健保会館(北4西7)3階会議室で、当協会の理事会(14:00～14:50)、総会(15:20～16:30)を予定しています。アトラクション日本舞踊(15:00～15:15)は、藤扇千女先生の「藤扇流日本舞踊」をお楽しみいただきます。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

新入会員紹介(2007年12月1日以降) <個人会員>

小柳 たい 太田 能美

ニューヨーク北海道ゆかりの会の新年会だより

ニューヨークの「北海道ゆかりの会」(幹事竹田勝男氏)より、新年のご挨拶が届いていますのでご紹介いたします。

<写真最後列左端：竹田 勝男氏>

道産子の皆様、2008年、新年明けましておめでとうございます。

本年もご指導の程よろしくお願い申し上げます。さて、先週2月7日にニューヨーク北海道ゆかりの会の新年会が開かれ無事終了しましたのでお知らせ致します。

お陰様で、80名程の北海道ゆかりの方々と素晴らしい新年を迎えることが出来ました。添付の写真はその際の関係者による記念撮影です。

昨年末からドサレディスという集まりも出来、若手の道産子レディーたちが、大いに気を吐き、おじさん、

おばさん道産子も元気付けられました。(日本経済、北海道経済の活性化も、このあたりにヒントがあるのでしょうか。) 皆様のご健康、ご活躍をお祈り申し上げます。





HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

北海学園大学大学院

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

- 経済学研究科／経済政策専攻
 - 経営学研究科／経営学専攻
 - 法学研究科／法律学専攻・政治学専攻
 - 文学研究科／日本文化専攻・国際文化専攻
 - 工学研究科／建築工学専攻・電子情報工学専攻
 - 芸術研究科／芸術専攻
- (法政大学院)

北海学園大学

HOKKAI-GAKUEN UNIVERSITY

- 経済学部(1部・2部)／経済学科・地域経済学科
- 経営学部(1部)／経営学科・経営情報学科
- 法学部(2部)／法学学科
- 法学部(1部・2部)／政治学科・政治学
- 人文学部(1部・2部)／日本文化学科・国際文化学科
- 工学部(1部)／社会環境工学科・建築学科・電子情報工学科

北海商科大学

HOKKAI SCHOOL OF COMMERCE

- 商学部／商学科・観光産業学科

北海高等学校

HOKKAI HIGH SCHOOL

- 普通科／特別進学コース・進学コース

北海学園札幌高等学校

HOKKAI-GAKUEN SAPPORO HIGH SCHOOL

- 普通科

学校法人 **北海学園**

HOKKAI-GAKUEN

理事長 森本正夫

(札幌西高1番地)

札幌市色平区堀形(丁目)番地号番(011)840-1361(代)

